

# 10-1 クマ出没時の対応

## 1 ツキノワグマの習性

- ・昼行性で、特に朝と夕方の薄暗い時間帯に最も活発に活動する。
- ・6月から10月頃までの出没が多い。
- ・トウモロコシ、ブルーベリー、桑の実、リンゴ、カキ、ドングリ、などを好んで食べる（家庭で排出される残飯なども好む）。
- ・畑に出てきたクマに襲われることがある。
- ・エサを求めて移動する。
- ・クマの繁殖期（7月～8月）にはオスの行動範囲が広くなり、子連れのメスは性格が荒くなる。
- ・脅すと、怖がって襲ってくる。
- ・子連れの場合、何もいないところに出て、子グマが遊んでいることがある。
- ・行動範囲が広いが、出没場所は同じ場所が多い。
- ・驚いた場合は、パニックになりどこに向かうかわからない。
- ・子グマを見ても絶対に近づかない。
- ・夏の暑いときは、川で遊んでいることがある。
- ・嗅覚がものすごく敏感で、においにつられて来ることがある。
- ・もしも、クマに出会ってしまったら
  - ☆背中を見せて走って逃げない(本能的に襲ってくる)ゆっくり後ずさりをして離れる
  - ☆カバンなどの持ち物を置いて、それにクマが気を取られている隙に逃げる
  - ☆クマが興奮するので、大声で叫んだり、石や棒などを投げつけたりしない

## 2 学校における平時の対応策

- (1) 保護者や関係機関と、クマが出没したときの対応を共有する
  - 児童への安全指導（下記参照）とクマ遭遇時の対処訓練
  - 関係機関との連絡体制（別紙参照）とパトロール等の依頼
  - 保護者への情報提供と注意喚起（れんらくアプリを機動的に活用）
  - 登下校時の対応（引き渡し、送迎等）
  - 外遊び、校庭での体育の対応（状況に応じて室内での活動に切りかえる）
- (2) 校地内にクマを寄せ付けないための対策を講じる
  - 実のなる樹木等は早めに収穫
  - クマのエサになるようなものを放置しない。

## 3 児童への指導

- (1) 自分を守り、クマを寄せ付けない方策
  - 登下校時に音の出るものを携行する（クマ鈴等）。
  - 食べ物を持ち歩かない。
  - 一人で行動せず、友達と一緒に行動する。
  - クマが近くにいるサイン（足跡など）を見つけたら、その場を離れる。
- (2) クマに出会った際の対処法
  - ゆっくり後ずさりして逃げる。
  - カバンなどの持ち物を置いて、それにクマが気を取られている隙に逃げる。
  - 大声で叫ばない（クマが興奮する）。
  - 石や棒などを投げつけない（クマが興奮する）。
  - 近くの家や商店、公共施設等に逃げ込む。
- (3) クマに襲われそうになった際の対処法
  - 両手を首の後ろに組んで、顔を伏せる姿勢を取る（頭や顔を守る）。